

# 第5回青の国 若山牧水短歌大会 審査結果

## 青の国短歌大賞

宮崎県宮崎市 山田 トシ子

よろこびを吹き出すようなひよつとこ踊りひよつとこひよつとこ笑ひはじける

■一般の部 自由題■

【最優秀賞】

兵庫県明石市 種田 淑子  
現世<sup>うつしよ</sup>にひと時幕を下ろすごとゆうらりゆうらり千丈の藤

【優秀賞】

宮崎県小林市 永田 タエ子  
両翼に空気を抱き飛来する鶴のふるさとシベリアの音

宮崎県綾町 鈴木 みち子

「俺が先」なんて元気な夫が言う淋しがり屋は遺しはしません

【優良賞】

宮崎県綾町 仲間 扶美

誰よりも貴男きみに見せたき木蓮は透間なく咲き足みな止める

宮崎県高岡町 赤池 カヨ子

寒いねと言え**ば**寒くはないと言**い**旨**い**旨**い**とよく食べる君

東京都足立区 小野 史

ひと夏の吾子の成長物語る十五センチの靴底の減り

【佳作】

佐賀県佐賀市 新地 浩一

沈黙に耐える術すべなど教えおりカウンセリング学ぶナースに

群馬県みなかみ町 眞庭 義夫

ひとり行く峡の更なる山間にわれの影もつ老いが菜を蒔く

宮崎県美郷町 山崎 ハル子

鳥の名を知りて七十年も経つ鶴を教えし恩師在さず

宮崎県日南市 坂本 一信

「億」、「兆」、「京」けいはるかに超える命数めいすうに「不可思議」のあることの不思議さ

福岡県筑後市 堤 啓子

ふくよかな胸の谷間に麦のたね真綿に包む母偲はるる

宮崎県宮崎市 青山 良子

馴染みたるソバがらの枕春の夜の耳を埋めて聞く亡夫つまのこえ

宮崎県日向市 田崎 登保

独り居の母病みてをり留守宅の丹精の花月光に映ゆ

福岡県北九州市 白石 和子

わが心春には遠しと思へども並木のこぶし白く咲きあふ

宮崎県宮崎市 川添 ゆかり

魂の帰る場所とう青おろの島小さきヤドカリせわしく動く

京都府京丹後市 荻野 文子

くもり窓落書きしてるその奥に白いころもの夕日の山々

宮崎県宮崎市 堀家 博子

西空に蒼く聳ゆる霧島山わが裡にあり七十年過ぐ

宮崎県宮崎市 甲斐 嘉一郎

つるみたる蝶のとまれる一草を残して今日の草刈り終はる

神奈川県相模原市 歌代 宇多利

ふたたびは訪ふことなからむ牧水の歌碑に掌を置く根本海岸

宮崎県綾町 小森 愛子

夫と子は單身赴任を語りおりほろ酔いの背中丸くなりゆく

大阪府箕面市 黒川 夏美

アールグレイを君の「好き」を飲み干して僕の6割は満たされていく

宮崎県宮崎市 中岡 千佳子

一日の終わりの最期のことばもあなたのおやすみで眠りたい

山口県岩国市 森田 アヤ子

晩年の母の齢を生きてをり触れなば爆ぜむ鳳仙花の実

宮崎県門川町 松下 礼実

記録会模範演技のバタフライ背中に翼<sup>はね</sup>が見える気がした

大分県大分市 金澤 諒和

黒板をきれいに消せば黒板に無数の傷のありて卒業

宮崎県日向市 若松 幸恵

二十年前に務めし学校を裏から見れば子等の心みゆ

■ 一般の部 題詠「水」 ■

【最優秀賞】

宮崎県宮崎市 川添 ゆかり

身のほどを知りて心の乾くとき金子みすゞが水注ぎくるる

【優秀賞】

静岡県静岡市 高橋 香子

なないろの金平糖が水たまりに散ってうまれた私の宇宙

山形県酒田市 村上 秀夫

牧水の青に染まらぬ哀しみと染められてゆくわれの哀しみと

【優良賞】

東京都八王子市 岡部 美穂

一時間悩んで決めた水色のワンピース着て君待つ駅に

宮崎県門川町 山田 訓子

若き日の夫の遺愛の水色の背広は子にも孫にも合わず

茨城県阿見町 宮崎 江美

傷ついて水も受けつけない雀呼びかけた母の手からのみ飲む

【佳作】

滋賀県東近江市 井田 寿一

剥がしゆく春のキャベツの含みたる豊けき水に指も潤う

宮崎県宮崎市 戸澤 等

故郷の美郷町なる水清谷その名の通り水清き谷

愛知県稲沢市 伊藤 英一

西穂高下る山路の岩清水足とどまらす水のささやき

宮崎県日向市 小林 鍊一

耕せと尾鈴の山は母に似て血脈のごとく水をおくりぬ

宮崎県宮崎市 佐藤 三義

焼酎は気違い水と誰か言う思い当たりが無い事も無し

宮崎県日南市 又木 康子

十日間水を飲めずに耐えし子に今朝もたつぷりの真水も供う

宮崎県延岡市 今村 公子

池の面にかすみ立ちこめ使者のごと番いの水鳥ふいに現わる

宮崎県日向市 上野 順子

機<sup>はた</sup>結びを子等に教へぬ紅白の水引二本糸に見立てて

静岡県静岡市 今井 克己

大富士をくぐり百年湧く水のペットボトルをコンビニで買う

山口県防府市 木原 純子

まひるまの湖水に星の降り落ちて近江の空はひかり産む青

鹿児島いちき串木野市 萬福 平次

嫁ぎ先の水に慣れたか最近娘の愚痴の声を聞かない

宮崎県宮崎市 塚本 宣子

山清水すくいて飲ませし母の手を離さず歩いた幼なきあの日

宮崎県綾町 畠中 征郎

採算の取れない米と知りながら春田を起し水を引きおり

宮崎県綾町 柿内 芳子

静かなる水平線に沈む陽を眺むる母にしばし寄り添ふ

宮崎県綾町 小森 愛子

気に入りの着物の色は水浅葱 紅注すことのなき母なりき

宮崎県綾町 竹下 恭子

雨多きときに「水無月」 訳調べ水を田に注そぐ水の月なり

岡山県岡山市 信安 淳子

田の水を夫と二人し見に行けば山すその川螢とびをり

青森県蓬田村 田中 馨子

水滴の滴るトマトにかぶりつく脳まで届くやさしい甘さ

宮崎県宮崎市 長友 律子

清らかな水の流るる耳川の光の中に船出を見たり

徳島県徳島市 吉友 寿恵

天空に人も水をも押し上げてスカイツリーの水洗トイレ

■小学生の部■

【最優秀賞】

日向市立東郷学園 6年 小林 優斗

つゆどきだ雨がぼとぼとおちてゆく自分のこころはぼとぼとさせない

【優秀賞】

日向市立大王谷学園 6年 小宮 琳乃

きんちよう感入場門をくぐりぬけ心のおでとかされるんだ

日向市立坪谷小学校 5年 那須 あかり

蛍たち橋の上でねふよふよとおしり光らせライトみたいだ

【優良賞】

宮崎市立内海小学校 4年 鬼束 真光

とうめいなおふろの水のてざわりはたたくとかたいすくうとふるふる

日向市立大王谷学園 6年 黒木 陸玖

イスラム国ざん殺するのはやめてくれぼくたちみんな優しい人です

日向市立大王谷学園 6年 山崎 禅

ソーラン節かまへのポーズをさつとやったらいきなり空気がビシツと変わった

【佳作】

宮崎市立内海小学校 1年 高山 咲楽

ゆうがたはまだまだきれいそらみればまんまるつきがきらきらわらう

小林市立南小学校 5年 森高 弘太

けんかしてごめんと言えず朝が来た「ごめん。」と言われくやしがるぼく

小林市立南小学校 5年 大崎 柊輝

しかられるまじいと思ひ証拠消ししらんととぼける僕

美郷町立美郷南学園 1年 新田 葵

すいかすきめをかくしてすいかわりばこーんとできたばきーんとわれた

美郷町立美郷南学園 4年 本田 翔吾

桜の木いっぱい咲いてまたしぼむそれが桜の決めたことかな

美郷町立美郷南学園 5年 花宮 百世

楽しいなみんなといっしょにどろまみれ田んぼに足を植えたみたいだ

日向市立東郷学園 5年 川口 真之介

荒起こしあらしろ田うえ夏休みプールしゅうかく活動多い

日向市立東郷学園 6年 吉田 聖矢

連休はお茶の手伝い大変だけどがんばるじいちゃんのために

日南市立鵜戸小中学校 6年 濱田 大空

心配はすればするほど増えていくそれが人の心というもの

美郷町立田代小学校 2年 森田 涼太

こいのぼり風にふかれてごきげんだ家ぞくそろって風をたべてる

美郷町立田代小学校 2年 森田 峻介

赤ちゃんはかわいいけれどきょうぼうだぼくの頭をたたいてくるよ

日向市立大王谷学園 6年 甲斐 圭翔

帰り道友達と見るあの景色小さいころとちがう景色だ

都城市立乙房小学校 4年 谷口 翔

お父さんビールの飲みすぎ気をつけてだってぼくらのヒーローだから

日向市立塩見小学校 6年 壱岐 夏海

海の水ずっとキラキラかがやいていつもみんなを笑顔にさせる

日向市立坪谷小学校 3年 那須 信太郎

ばあちゃんの手動きがねお手本だすがていねいよくわかったよ

西都市立銀上小学校 4年 原 将文

えさしかけ待っても釣れず場所変えたすぐに食いつく小さい魚

日向市立寺迫小学校 3年 黒木 玲乃

さなぎからチョウになったよ羽ひろげとび立つところみんなで見守る

日向市立寺迫小学校 5年 高尾 佳鈴

あじさいがおけしようするよ今年もねじめめするじき青、白、むらさき

日向市立寺迫小学校 6年 甲斐 千愛

ちよ金箱もってるけれどカギがない使いたくなったらどうしようかな

延岡市立一ヶ岡小学校 5年 甲斐 瑞季

ザーザーピチャ雨はいきいき遊んでいるだからわたしは静かに読書

■ 中学生の部 ■

【最優秀賞】

日向市立東郷学園 7年 田中 昂  
精を出し汗もながして素振りする空と心に光る星あり

【優秀賞】

大淀学園鵬翔中学校 2年 秋岡 敬子  
始まりは少しはねてる前髪を君が「うふつ」と笑った日から

宮崎日本大学中学校 3年 長嶺 佳輝  
炎天下その下を歩く僕たちは光り輝くアマテラスの子

【優良賞】

日向市立東郷学園 8年 十時 摂那

春風の吹く中見ればタンポポが団体様で旅行に出発

宮崎第一中学校 3年 日高 実咲

六時前朝日が水を踊らせるつられて光る田んぼの青苗

門川町立門川中学校 2年 岩切 愛華

イジワルだまた会えるなんて分からないそれでも君はまたねと言った

【佳作】（該当者19名）

宮崎大学教育文化学部附属中学校 3年 清水 さくら

夕焼けに手をつないでくる母と子は言葉なくとも笑顔があつた

宮崎大学教育文化学部附属中学校 3年 野田 達矢

新緑やなぜそんなにも青いのか問うてる私もまだ青二才

宮崎大学教育文化学部附属中学校 3年 兒玉 貴紘

セッターのクセのあるトスをにらみつつエースの俺はスパイクを打つ

日向市立東郷学園 7年 上野 瞬

帰り道ソロのうぐいす大熱唱持つてる笛で伴奏しようか

日向市立東郷学園 7年 三浦 真奈美

水たまり夜にキラキラ光ってる月の鏡だ今夜もおめかし

小林市立紙屋中学校 3年 信時 千尋

部活では怖い先輩家ではね姉に怒られとてもおとなし

五ヶ瀬町立鞍岡中学校 2年 田原 光貴

他人には平気で言える「ありがとう」家族に言えぬこのはずかしさ

都城市立小松原中学校 2年 木佐貫 久玲亜

夏祭りあの人思い帯結ぶ浴衣の帯に期待を込めて

延岡学園尚学館中学校 1年 児島 真帆

今という言葉はないよなぜならば今という間に今はすぎるから

宮崎第一中学校 2年 牧元 美久

もう君を好きではないと言い聞かせかみしめ歩く一步の重さ

宮崎第一中学校 3年 森田 瑛理

雨打たればつりぽつりと儚げに雪を散らせるこでまりの花

宮崎日本大学中学校 2年 長友 海也

ひらひらと舞い散る花びらでも僕は一人寂しく舞いたくはない

宮崎日本大学中学校 2年 岩本 篤郎

最強の君の笑顔が引き戻す心の底の暗い闇から

宮崎日本大学中学校 3年 高橋 伶奈

親子やなあ昨日はあんなにケンカしたでも翌朝にはおっかの笑顔

宮崎日本大学中学校 3年 永田 実里

毎日が自然と笑顔になっていて自分で呼んでる幸運の種

宮崎日本大学中学校 3年 石川 晋之介

蝉の声ふと青空を見上げると白銀の尾をひく鉄の鳥

日南市立飫肥中学校 2年 坂元 瑞宝

静かなる振徳堂に導かれ寿太郎侯の誠を学ぶ

延岡市立南中学校 1年 橋倉 明里

世の中は二重人格あるけれど私の母は百重人格

延岡市立南中学校 1年 富重 さくら

何冊も読めば読むほど好きになる小さな本に大きなお話

延岡市立南中学校 1年 下田 来海

お母さんいつも毎日ありがとう少しは私を頼ってみてよ

■ 高校生の部 ■

【最優秀賞】

延岡学園尚学館高等部 2年 尾池 泰輔

若鶏の唐揚げにつくレモンのようにすっぱいだけのそんな青春

【優秀賞】

宮崎西高等学校 3年 久永 草太

幸田文税込み八十六円が背筋伸ばせり冬の古書店

延岡学園尚学館高等部 2年 水口 明星

トラックを駆けるあなたに恋をして走る鼓動はボルトを越える

【優良賞】

延岡商業高等学校 3年 田上 玲唯

明日こそ直接会って伝えよう決意を胸に電源を切る

宮崎西高等学校 3年 鬼塚 友惟

リップぬる友達を見て大笑い「天ぷら食べたあとみたいね」と

宮崎西高等学校 3年 松田 映海

返信の最後は必ず疑問文君とのメール続けたいから

【佳作】

都城聖ドミニコ学園高校 2年 栗巢 椎葉

「でも」「だけど」後からつけ足す言い訳で苦しくなっているのは自分

延岡商業高等学校 2年 川崎 美羽

的を射るその瞬間に張りつめた空気が揺れて矢が弧を描く

延岡商業高等学校 2年 佐藤 将星

隣には俺がいるよとつぶやけるそういう男に俺はなりたい

延岡商業高等学校 3年 安藤 桃華

曲がり角君が来るのを期待して曲がった先には無人の廊下

延岡商業高等学校 3年 米田 礼

うつむいて歩いてたっていいじゃない小さな命ふまなくてすむ

日南学園宮崎穎学館 1年 黒木 絵雅

うしろから落ちてきたペン渡すとき聞こえやしないか僕の鼓動が

延岡星雲高等学校 1年 生田 彩佳

「美味しい」と料理褒められ舞上がるんだけどホントはレトルト食品

延岡星雲高等学校 2年 河野 真緒

失敗も悲しみもまた僕たちを組み立ててゆくピースになるのか

富島高等学校 2年 矢野 未紗

三日月と七つの星のオリオン座帰宅途中の小さな幸せ

宮崎西高等学校 3年 柳田 光久

よし寝ようそう思って横になる扉の向こうに親の殺気が

宮崎西高等学校 3年 渡邊 千陽

中身までキレイにのぞく顕微鏡君の心ものぞけぬものか

宮崎西高等学校 3年 中川 萌

古典解き分ならず祖母に尋ねたが祖母にとっても古いものだった

宮崎西高等学校 3年 近藤 華果

アホやなと笑う声さえ嬉しくて年上彼氏の上手い解説

高城高等学校 3年 阿多 史華

初ビキニぷつんぷつんと青色の夏を感じる水玉模様

高城高等学校 2年 児玉 亮太

ネット社会画面と向き合い長時間奪われてゆく家族との時間

高城高等学校 1年 河野 侃人

世の中のリア獣達よ全員がわかれる事を願う毎日

宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校 6年 甲斐 康裕

二人組作れと言われまわり見て偶数なのにあまった自分

延岡学園尚学館高等部 2年 平戸 麟太朗

若さとは怒ることだというけれど年中怒る母がいるなり

日向高等学校 1年 黒田 志峰

おとなしい女子になろうと思ったが高校デビューも三日で崩壊

日向高等学校 3年 黒木 尚斗

日常の不幸なことは分かるけど幸せなことはよくわからない

